第65回卒業式がいわき芸術文化交流館アリオスで挙行されました。
（平成25年3月1日）

震災前、双葉高校の体育館で撮影した学年の集合写真を受付に掲示しました。懐かしい顔がたくさん見られました。

卒業生の名前が呼名され、各クラスの代表者に卒業証書が授与されました。

卒業生を代表して、全生徒会長の鈴木康弘君がお別れの言葉を述べました。

左の作品は23年度、24年度に修学旅行で交流があった愛媛県立八幡浜高校から贈られたものです。上は両校での共同製作によるモザイクアート、下は4つのサテライトが1つになるようにとの願いを込めて書道部から贈られた書です。

今回、卒業式で客席に展示されました。

八幡浜高校のみなさん、

ありがとうございました。

校　長　式　辞

木々の芽も膨らみ始め、早春を迎えたこの良き日に、県議会議員吉田栄光様、双葉町長職務代理者井上一久様、同窓会長小山恒夫様、ＰＴＡ会長小野田浩宗様、いわき明星大学長関口武司様始め、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、平成２４年度福島県立双葉高等学校第６５回卒業詔書授与式において、晴れて卒業を迎えた６７名の皆さん、心からお祝いの言葉を送ります。卒業おめでとう。

本日卒業を迎えるにあたり、数々の思いが去来することと思います。希望に満ちて本校校門をくぐり、順風満帆に高校生活を送り、自己の進路を定め、本校舎体育館でこの日を迎えると思い描いていたものが突然途絶えてしまいました。多くの友が苦渋の選択をして転校していく中、皆さんは双高にとどまり、誇りと伝統を繋いでくれました。

大正１２年旧制中学校として創立以来、地域を担う人材の育成という役割を果たしつつ、同窓生が確固とした基盤を築きあげてきた本校歴史の中で、３年間学舎を変え、皆さんほど多くの経験をしながら学んだ卒業生はなかった思います。その意味でも、本校の歴史にとって皆さんは掛け替えのない存在でありますし、伝統を次に繋いだ学年として誇りを持って卒業してほしいと思います。

皆さんとはわずか１年しか共に過ごすことができませんでした。しかし、私は皆さんから勇気、感動、母校やふるさとへの愛といった、貴重なものをたくさんいただきました。不都合な環境でも真摯に授業に臨んでいる姿、不自由な環境の中ひたむきに練習し大会で躍動している姿、日頃見せてくれる優しい笑顔やさわやかな挨拶にどれほど私は皆さんに勇気づけられたことか。もっと自由に伸び伸びと高校生活を楽しみたかったことと思います。３年間本当によく頑張りました。皆さん一人一人は私の誇りですし、皆さんと出会えたことの喜びを決して忘れません。

震災以来様々な方々からの温かい支援や援助、思いやりの気持ちをいただいたと思います。そのことへの感謝の気持ちを持ち続け、今後の人生において、ふるさと双葉郡、福島県の復興はもとより国内外で社会貢献できる人になってほしいと願っています。

家族そして温かい支援に対して、恩を返すことはしばらくできないことと思います。しかし、恩を送る、少し先に延ばすことはできます。我が子、我が孫、そして来たるべきとき周りにいる方々にかつていただいた恩を返すことを心にとどめておいてください。

次年度本校は創立９０年の節目を迎えます。皆さんは１万７千有余の同窓生の一人となります。伝統校の卒業生としての誇りを心に、後輩を陰ながら励まし続けてほしいと思います。

皆さんの新たなスタートを心から祝福し、一歩一歩着実に努力を続けながら、高遠な理想、夢を追求せよという本校校歌最後の一節「歩み固かれ目は遠く」の実践と質実剛健、終始一貫の教えを堅持し、明日という希望に向け、ひるむことなく羽ばたいてください。

結びになりますが、困難な状況の中これまで我が子を慈しみ育ててこられたご両親、ご家族の皆様に心から敬意を表し、これまでの本校教育へのご理解とご協力に心から感謝を申し上げます。併せて、本日ご臨席を賜りましたご来賓の皆様にこれまでの本校への温かいご支援に改めまして感謝申し上げ、ご健勝をお祈りし今後も変わらぬご支援を賜りますようお願いを申し上げ式辞といたします。

平成２５年３月１日

福島県立双葉高等学校長　刈屋　俊樹